



江戸子ども 学びの風景展

2017

10.11

水

▶ 11.4

土

開館時間 午前10時～午後4時

休館日 日曜日・月曜日・祝日

10月27日(大学祭準備日)・31日(大学祭片付け日)

※ただし、10月29日(日)、30日(月)は大学祭期間に伴い開館

観覧料 300円、高校生以下無料

会場 ギャラリー1

Open: 10:00~16:00

Closed: Sundays, Mondays, holiday and 10.27 fri, 31 tue

※Open on 10.29 sun and 30 mon

Admission fee: Adult 300 yen

※Under 15 and high school students are free

Place: Gallery 1



城西大学水田美術館

MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

図版「萬葉抄り書き書」 源氏物語「白河院書」 部分、大和國三枚紙、弘化（1844～47）頃、目録裏

江戸子ども学びの風景展



このたび、城西大学水田美術館におきまして「江戸子ども学びの風景展」を開催する運びとなりました。

「学問による人間形成」- 本学創立者水田三喜男が掲げた建学の精神は、学ぶことを通して道徳的人格を育むことが根底にあります。そしてその精神は、かつて江戸時代に多くの庶民の子どもたちが通い、学んだ寺子屋の教育理念と通っています。14世紀頃から始まったとされる寺子屋は、江戸時代に入ると都市から農村まで全国的に広がって展開されるほどで、一般庶民の識字率が非常に低かったヨーロッパに比べ、就学率、識字率ともに世界でも最高レベルにありました。その背景には、寺子屋が民間人による庶民のための私的な教育システムによって成立したことがあげられ、義務的なものではなかったため、学費、就学年齢、男女や家柄の区別はなく、どんな子どもでも学びたい時に学びたい期間だけ自由に読み・書き・そろばんを学ぶことができるというのが特徴でした。

このたびの展覧会では、そうした寺子屋での子どもたちの学びに焦点を当て、どんな教育環境でどのように学んでいたのかを、その様子が伺える浮世絵版画を中心に、教材として使われていた往来物をはじめ、天神机、そろばんといった実際に寺子屋で使われていた道具類も展示しながらご紹介していきます。中でも往来物については、幕末から明治にかけ、県内において日本最大級の規模を誇った北野村（現・所沢市）の寺子屋「北広堂」の手習い師匠澤田泉山（1823～1910）による往来物11点を展示し、寺子屋教育の地方展開の一例としてもご覧いただけます。

教育の原点ともいえる寺子屋教育について、江戸の子どもたちを取り巻く学びの環境を振り返りながら、現代における教育の在り方について今一度考える機会となれば幸いです。



- 講演会 10月28日（土）13時30分～15時
17号館（経営学部棟）1階プレゼンテーションルーム
講師：小泉吉永氏（法政大学文学部講師、往来物研究者）
演題：「江戸の寺子屋—知育・徳育の諸相」※聴講無料・要予約
- 学芸員によるギャラリートーク
10月14日（土）14時～ ※予約不要・要観覧料



（左上から）歌川豊国《蘭語でらこ吉書はじめていこの図》大判錦絵三枚続、文化30年（1884～1891）、公文教育研究会蔵／歌川国芳《幼童諸君教書 字習》大判錦絵、弘化（1844～47）頃、公文教育研究会蔵／歌川国芳《書習字書出陣図六》大判錦絵二枚（縮六）、弘化4年（1847）、公文教育研究会蔵／字本館《鈴木万之介肥后》、34.0×27.0×14.0cm、享保14年（1739）、佐賀県立美術館蔵／澤田泉山《澤田風蘭帖》、墨書、大判一冊、25.0×17.0cm、佐賀県立美術館蔵

交通のご案内 / Access



- 電車の場合
東武東上線 坂戸駅東口から東武東上線川角駅（かわかど）駅下車、踏切を渡り徒歩10分
By train: From Sakado station of the Tobu-Tojo Line, take the Tobu-Ogose Line and get off Kawakado station. It is a ten minute walk to the university.
- 自車の場合
1. 関越自動車道 川角IC下車、都立川角方面に進み国道407号線を直進
2. 「御所田丁」交差点で右折し、右に有野動物病院の看板がある交差点で右折
3. 一本松交差点を右折し、川角方面に直進
4. 横（万年橋）を渡り、「明海大学病院」の看板のある交差点を左折し直進、踏切を渡り坂道を上る（約20分）

